

(北野 PPT 第7章 該当問題)

試 I - 20 令和3年度

**問題 5** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

聴解の授業では、様々な聴解教材を用いる。例えば、市販教材や生教材<sup>A</sup>などである。聴解を主とする授業では、聞く態勢を整えるための前作業の後、本作業として聞く活動を実施する。本作業では、まとまった長さの話から全体的な主旨を聞き取る練習<sup>B</sup>や、注目すべき情報に焦点を当てて内容を聞き取る練習などが行われる。これらの練習では、イラスト<sup>C</sup>が提示されることもある。また、対話を聞く場合、録音された会話を第三者として聞く練習や、対面聴解の練習<sup>D</sup>が行われる。後作業では、覚えたほうがよい語や表現を定着させる練習<sup>E</sup>が行われる。

**問 1** 文章中の下線部A「生教材」の説明として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 外国語教育用の視聴覚教材で、日本文化や日本事情が紹介されたもの
- 2 学習者向けの映像教材で、母語話者によって役割が演じられたもの
- 3 映画やアニメなど、母語話者向けに作られているもの
- 4 演劇や落語など、実際に目の前で演じられているもの

**問2** 文章中の下線部B「全体的な主旨を聞き取る練習」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 何を主張したいのか考えながら、クラスメートのプレゼンテーションを聞く。
- 2 傘が必要か考えながら、天気予報で自分の住んでいる地域の天気を聞く。
- 3 時間通りに目的地に着けるか考えながら、電車のアナウンスから遅延情報を聞く。
- 4 インターンシップに参加できるか考えながら、説明会で日程に注意して聞く。

**問3** 文章中の下線部C「イラスト」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 思考動詞や推量表現の意味の違いを、明示的に示すことができる。
- 2 学習者が既に持っていた知識を活性化し、内容の理解を促進することができる。
- 3 学習項目への気づきを促すことはできるが、記憶に結びつけることができない。
- 4 状況を提示することはできるが、人の心理状態を示すことができない。

**問題6** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

日本語教育の指導や学習の方法は進化を続けている。言語形式に注目したインプット強化<sup>A</sup>などの指導法がある一方で、最近ではアクティブ・ラーニングが注目されている。アクティブ・ラーニングの土台となる学説には、ヴィゴツキー（L.S.Vygotsky）の最近接発達領域（ZPD）<sup>B</sup>などがある。その実現方法の一つとして、プロジェクト型学習<sup>C</sup>が挙げられる。活動の中では、学習者の能動的な学びを引き出すためにKJ法<sup>D</sup>が使われることがある。また、ジグソー法<sup>E</sup>を使って情報や意見のやり取りが行われることもある。

**問5** 文章中の下線部E「ジグソー法」の活動方法として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 グループごとに異なる情報が与えられ、その内容理解を深める。その後、異なる情報を持った学習者同士で別のグループを編成し、内容を教え合う。
- 2 二つのグループに分かれ、ある問題について自分とは異なる立場から議論する。その後、グループを作り直し、自分の立場で同じ問題について議論する。
- 3 円の内側と外側に座り、内側の学習者があるトピックについて話し合いをする。その際、外側の学習者はその話し合いを聞き、観察する。
- 4 問題の事例に関する記事を各自で読む。その後、ペアになり記事の内容についてそれぞれが考えた質問をお互いに行う。

**問題10** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

第二言語学習者は、同じ表現であっても正しく発話できたりできなかつたりすることがある。こうした正用と誤用を繰り返しながら学習者の言語が変化していく現象は、 (ア)  に可変性があることを示している。第二言語の発達のためには、周囲からのインプットを得て長期記憶に貯蔵する必要がある。そのためには、維持リハーサルよりも精緻化リハーサルのほうが効果的である。さらに、言語学習には、ビリーフなど関わっているとされている。情意フィルター仮説で指摘されているように、学習者の情意面が言語の学習や習得に影響することも知っておくとよい。

**問4** 文章中の下線部C「ビリーフ」の説明として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 言語とその使用者および文化に対して形成され、固定化されたイメージ
- 2 言葉のやり取りを介して、対話者同士の間にも築かれていく相互の信頼関係
- 3 教師や学習者の経験に基づく、言語学習はこうあるべきという個人的な見解
- 4 教室指導や言語学習をする際、教師や学習者が習慣的に使う情報処理の方法

**問題11** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

教師は第二言語学習における個人差を多面的に捉える必要がある。例えば、動機づけ<sup>A</sup>は言語学習を継続する原動力となる。また、動機づけは学習段階によって変化する<sup>B</sup>と言われ、教師はそれに応じた働きかけを行う<sup>C</sup>ことが推奨される。さらに、学習者のビリーフ<sup>D</sup>も学習に影響を及ぼしている。その他に、キャロル (J.B.Carroll) の示したように言語適性<sup>D</sup>にも個人差がある。教師はそうした個人差や学習の段階に配慮しながら、学習者オートノミー<sup>E</sup>を育成するよう努めることが望ましい。

**問5** 文章中の下線部E「学習者オートノミーを育成する」ための教師の行動として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 教師は学習者に目標を聞き、それを達成するための学習行動を自分で考えさせる。
- 2 教師は自身の教育経験に基づき、学習者にとって最適だと思う方法で学習させる。
- 3 教師は学習者が自分で学習を進められるよう独習用テキストを決め、見守る。
- 4 教師は学習者の望む学習内容・方法を確認し、その希望に沿った形で授業を行う。

**問題7** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

1990年代以降、日本語教師の養成や研修において、「教師の成長」という考え方が注目されている。特に「自己研修型教師」の養成では **(ア)** の重要性が指摘されるようになった。教師の自己成長を実現するには様々な方法があり、アクション・リサーチ<sup>A</sup>もその一つである。また、教師自身のビリーフ<sup>B</sup>への気づきが、実践や教師の成長に影響を与える可能性も示唆されている。

授業を行う際に教師が考えるべきことは多い。例えば、教科書を使用する場合は教科書<sup>C</sup>分析をする必要がある。授業や教え方の改善<sup>D</sup>を継続し、成長し続けることが、養成課程の実習生や新任教師だけでなくベテランの教師にも期待されている。

**問1** 文章中の **(ア)** に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 協働
- 2 内省
- 3 動機
- 4 修復

**問2** 文章中の下線部A「アクション・リサーチ」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 自分の授業を改善することを目指して行う小規模な調査であり、自身の授業の問題点や関心事を取り上げる。
- 2 同じ問題を抱える他の教育機関の教師の参考になるように、授業で収集したデータを分析し、結果を一般化する。
- 3 現場での取り組みはそのままでは研究になりにくいので、事前に計画を立てて研究に必要な授業の条件を整える。
- 4 同僚の教師に授業を観察し分析した結果をフィードバックしてもらい、その結果を自分の授業に反映する。

令和4年度 試験Ⅲ

問題5 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

ビジネスパーソンのレッスンを初めて担当するX先生が、先輩のY先生に相談をしている。

X先生：来月から初めてビジネスパーソンのプライベートレッスンを担当することになったんですが、いろいろと分からないことが多くて。

Y先生：ああ、留学生対象のクラス授業とは違いますよね。もう、レディネス調査は終わったんですか？  
A

X先生：ええ、先日顔合わせがあって、レディネス調査とニーズ調査は済みました。今、シラバスとカリキュラムを検討しているところなんです。  
B

Y先生：そうですか。ビジネスパーソンは学習目的が明確な場合が多いですから、タスク  
C  
シラバスを検討してもいいかもしれませんね。

X先生：なるほど、そうですね。

Y先生：それから、カリキュラムデザインにも工夫が必要になりますね。  
D

X先生：はい。そのほかにも何か気をつけたほうがいいことはありますか？

Y先生：ビジネスに従事する学習者は、アカデミックな日本語を勉強する留学生とは異なる点もあると言われているので、その特性を知っておいたほうがいいですね。  
E

問1 文章中の下線部A「レディネス調査」の結果を基に教師が行うこととして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者が希望する学習時間帯が早朝や夜間の場合、疲労や集中力の低下を考慮して学習進度を設定する。
- 2 学習者や会社側が希望する到達目標に無理がある場合、具体的で到達可能な目標を提案する。
- 3 学習者が信頼しているテキストであっても教師が適当でないと判断した場合、使用を断念させる。
- 4 学習者が仕事で使う日本語を身につけたいと思っている場合、ビジネスマナーや待遇表現の学習を取り入れる。

問2 文章中の下線部B「ニーズ調査」で行う質問として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 現在、ビジネス場面において日本語で何ができるか。
- 2 職場で授業を受講する場合、どのような機器が使用できるか。
- 3 業務では四技能のうち、どの技能の習得を優先する必要があるか。
- 4 ビジネス日本語を習得するためには、どのような練習が必要だと思うか。

問3 文章中の下線部C「タスクシラバス」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 「企画を立てる」「商品を売り込む」など、遂行すべき業務を基に構成されている。
- 2 「説明する」「謝罪する」など、業務で必要な機能を中心に構成されている。
- 3 「金融政策」「情報技術」など、担当業務に関連した内容で構成されている。
- 4 「会議」「出張」など、日常業務で遭遇する状況を想定して構成されている。

問4 文章中の下線部D「カリキュラムデザイン」の例として不適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者の業務の状況を確認したうえで、授業時間数と進度を決める。
- 2 日本事情やビジネスマナーの説明に、媒介語を使用するかどうかを決める。
- 3 「提案書」「見積書」など、どのようなビジネス文書を教材とするかを決める。
- 4 「商談で使う表現」「電話応対で使う表現」など、学習項目を決める。

**問題 4** 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

日本語コースの主教材は、学習者に合わせて教師が作成するのが望ましい。主教材は、ニーズ分析や目標言語調査に基づいて作成する。優れた教材を効果的・効率的に開発していくためには、「(ア)」というプロセスを組み込むことが有効である。

市販の教科書を使用する場合は、コースで設定したシラバスやカリキュラムに合ったものを選定することが重要である。教科書にある練習を補うための補助教材としては、インフォメーション・ギャップを取り入れたタスクシートなどがよく使用される。また、実践的な日本語運用能力を養成するには、生教材の使用が効果的である。

**問1** 文章中の下線部A「目標言語調査」の説明として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者が日本語を学ぶ際の目標や言語学習に対する適性を調べる調査
- 2 学習者が日本語を必要とする場面における実際の言語運用を調べる調査
- 3 学習者が既に持っている日本語に関する知識や学習経験を調べる調査
- 4 学習者が学んだ教科書で扱われていた言語項目とその配列を調べる調査

**問2** 文章中の(ア)に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 Plan - Do - See
- 2 Practices - Products - Perspectives
- 3 プレゼンテーション — コンサート — 実践
- 4 前作業 — 本作業 — 後作業

問3 文章中の下線部B「シラバス」のうち、機能シラバスによる教材の目次の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 「私の家族」「好きなこと」「食べ物」
- 2 「駅で」「レストランで」「郵便局で」
- 3 「メニューを読む」「メールを読む」「広告を読む」
- 4 「依頼する」「誘う」「謝る」

問4 文章中の下線部C「インフォメーション・ギャップを取り入れたタスクシート」を用いたペア活動の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 お互いの家族写真を一緒に見ながら、家族について紹介し合う。
- 2 間違い探しに用いる2枚の絵を一緒に見ながら、違う点を指摘し合う。
- 3 架空の町の地図を一緒に見ながら、駅への道順について確認し合う。
- 4 パーティーのイラストを一緒に見ながら、出席者が何をしているかを質問し合う。

※問5はとても簡単なので、省略